

## 教育委員の想い

教育委員 中枝 範子

五月に就任してから二カ月余りが経過し、市内の小中学校の運動会や各種行事の視察、定例会議の参加等、不慣れではありますが、教育委員としての活動を始めさせていただいているところです。大きなお役割を頂戴し、未だに辞令を頂いた時と同じような身の引き締まる思いでおりますが、このような形で「教育」の分野に携われることは、教職に一度従事した者として大変光栄であり、またそれ故に責任の重みを強く感じております。

今、懐かしい教育現場の風景や、諸先輩方のお言葉が、二十年の時を経て思い出され、時代が移り変わっても、学校と地域を繋ぐ人のこころの有り様は変わらないと改めて思うのです。

地域性というものは、風土や人口・人々の暮らし方によって相違はありますが、学校は地域社会と遊離して存在するものではなく、地域社会においての学校であり、昔から学校は地域のセンター的存在でありました。もちろん主役は校舎で学ぶ子ども達であり、その子ども達のために地域との連携を深めていくことが重要で、近年、名寄市の学校が開かれたスペースとして機能していることは、大変望ましい在り方です。各学校においては、ボランティアの方による絵本の読み聞かせ、裁縫やスキー授業、放課後学習の補助指導、登下校の見守り、学校評議員や地域安心安全会議の方々による協力体制が確立し、またコミュニティ・スクールが運営される等、新しいスタイルで地域との一体化が図られてきています。

その一方で、子育て世代においては、女性の社会進出が著しいこともあり、多忙を極め、学校と関わる機会を持つことが、課題となっているように見受けられます。学問を学び、大半の時間を過ごす学校に教育は任せるべきものという考えは、学校を頼りにしているという事でもあると思うのですが、子どもや子どもを取り巻く人々や学校に関心を寄せ、実際に様子を見聞きすることは、「我が子への理解を加速させることに繋がり、家庭での教育に反映される。」と親の立場から常日頃考えるところです。名寄市の学校力向上プロジェクト推進の中で教育研究に尽力され、子ども達に熱心に指導される先生と、地域社会の一員でもある保護者の方々が連携して、学校教育と家庭教育の両方を調和させる努力が今後更に必要となっていくことでしょう。

「地域の活動の中に入る事が大切である。」生涯現役医師として活躍された日野原重明氏が、生前提唱していた生き方の中のお言葉の一つは、105年の人生を謳歌された秘訣であり、また少子高齢化社会における、学校と地域の関係の方向性に一致するのではないかと思います。

郷土愛に満ち溢れた名寄市の人々の温かなこころは、この土地の財産であり誇りです。

一生涯において、学校と関わり続けることが可能となるこれからの時代、「学校」を通して子ども達に人々のこころと文化を継承してもらいたい。これからの未来を担う子ども達と保護者のために、また彩り豊かな人生を送る全ての年代の皆さんのために、「学校」が地域の中心に存在し続けてほしいと願います。